

都市再生整備計画 事後評価シート
島原市中心市街地地区

平成25年 3月

長崎県 島原市

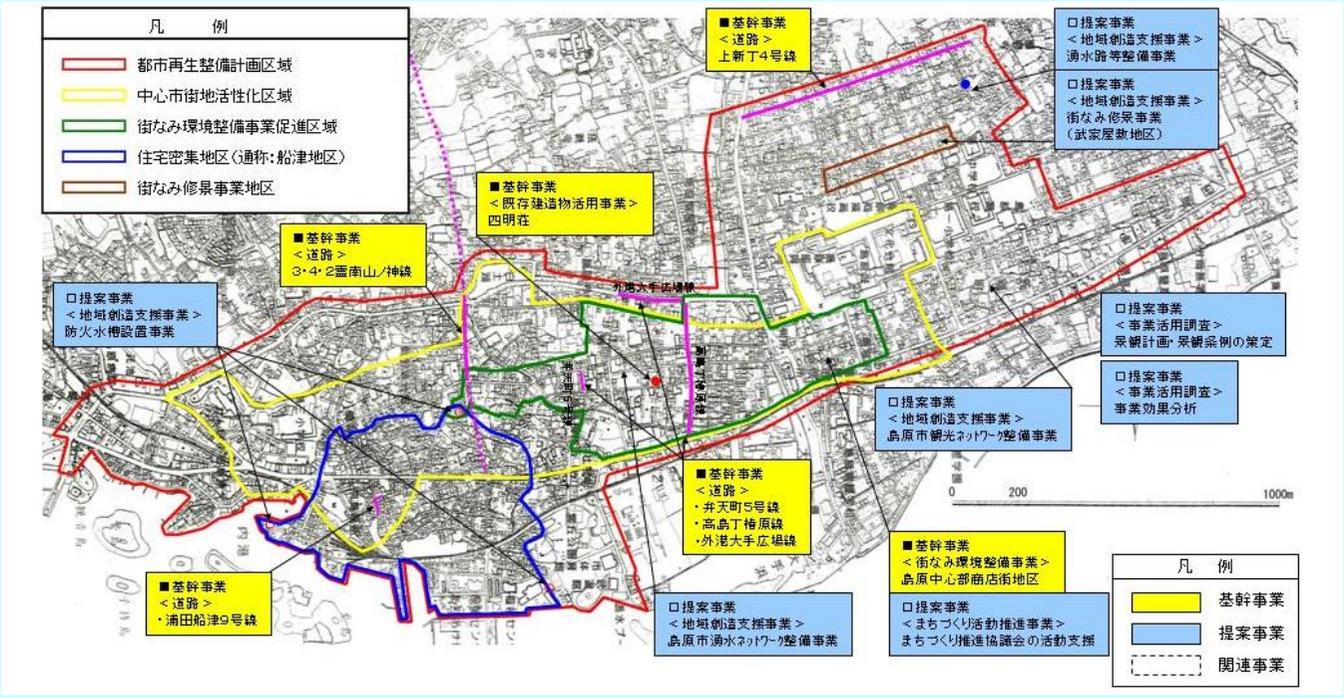
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県	市町村名	島原市	地区名	島原市中心市街地地区			面積	251 ha				
交付期間	H20年度～H24年度	事後評価実施時期	平成24年度	交付対象事業費	1324.3	国費率	40.0%						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	街路(霊南山/神線)、道路(市道上新丁4号線、市道弁天町5号線、市道高島丁橋原線、市道外港大手広場線、市道浦田船津9号線)、街なみ環境整備事業										
		提案事業	地域創造支援事業(湧水路等整備事業、島原市湧水ネットワーク整備事業、防火水槽設置事業、島原市観光ネットワーク整備事業)、事業活用調査(景観計画・景観条例の策定)、まちづくり活動推進事業(まちづくり推進協議会の活動支援)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(市道堀町縦線、市道元船津1号線) 事業名: 市道堀町縦線: 地元町内会より整備路線の優先順位の見直し要望があり、本路線を平成25年度以降に整備することとして計画変更して削除 市道元船津1号線: 本工事については、市関連の単独事業で整備を実施するため計画変更して削除							影響はない			
		提案事業	地域創造支援事業(高潮対策排水ポンプ設置事業) 地元町内会の意見を聴取したところ、地元町内会による排水ポンプの維持管理は難しく今回の設置は見送りたいとの意向であったために削除							高潮による道路冠水延長に影響が見込まれるが、浦田船津9号線の整備事業があるため、指標、数値目標は据え置く			
	新たに追加した事業	基幹事業	既存建造物活用事業(四明荘) 既存の施設を活用することにより、湧水を活かした観光交流の場として整備を追加							中心市街地の魅力向上および歩行者通行量の増加に寄与が見込まれるため、指標および数値目標は据え置く			
		提案事業	地域創造支援事業(街なみ修景事業)、事業活用調査(事業効果分析) 武家屋敷地区の街なみの保存を図り、歴史を活かしたまちづくりを進めるため追加まちづくりの目標の達成状況の確認、事業効果及び実施過程の検証のため追加							中心市街地の魅力向上に寄与が見込まれるため、指標および数値目標は据え置く			
交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	中心市街地のアメニティに対する満足度	点	2.47	H19	3.00	H24	—	2.60	△	あり	アンケート自由記入などから湧水路整備や四明荘、街なみ環境整備事業、街なみ修景事業などそれぞれ評価や提案などの意見があり、取り組みは評価されているとみられるが、総合的な満足度については期待された向上にはつながらなかった。しかし、歴史と湧水を活かした観光を柱とする本市の方向性は市民の理解が浸透しているとみることができる。	H25.12
	指標2	商店街歩行者通行量	人/9h	851	H19	950	H24	895	709	×	あり	通行量調査は毎年実施しており、平成20年、21年にはいったん増加を見せたが平成24年2月に大型スーパーが撤退したこともあり、減少傾向となった。	H25.9
	指標3	消火活動困難住宅戸数	戸	541	H19	340	H24	—	430	△	あり	周辺水利が不足しており消火活動に支障をきたすことから、密集市街地の防災安全性を高めるために防火水槽の設置を行った。水利が確保されたことで、周辺地域の消火活動の迅速性が図られ、一定の安全性の向上が図られたが、うち1箇所の設置箇所が変更となったため解消戸数が見込みよりも減少した。	-
	指標4	高潮道路冠水延長	m	2,120	H18	1,340	H24	—	2,036	×	あり	当初計画した高潮対策排水ポンプ設置事業が廃止となったため目標を達成できなかった。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	四明荘の来客数	人/年	38,957	H23	/		—	43,798	/	あり	四明荘の再整備により、湧水を活用した本市の新たな観光拠点となり、中心市街地への観光客の誘導に大きな役割を果たしており、活性化に寄与した。	H25.5
	その他の数値指標2	0	0	0	0	/		—	0	/	なし	-	-
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> アンケート自由記入において、湧水を活かしたまちづくり、四明荘の整備等について評価する意見や、島原市の観光活性化に関する具体的な提案・要望・意見が見られ、まちづくりに対する関心を喚起できたと推測される。 市道 上新丁4号線の歩道バリアフリー事業により、市民から歩道の利便性、安全性が向上したとの意見が上がっており、住環境の向上に繋がった。 道路の排水性舗装整備事業により、沿道の騒音が減少し、雨天時の走行性や視認性もあがったとの意見が上がっており、住環境の向上に繋がった。 市道 浦田船津9号線の路面排水施設整備事業により、路面を上げて側溝を整備したことにより、高潮被害への対策を講じることができた。 防火水槽の設置位置の変更により数値目標は達成できなかったが、設置後に発生した火災では延焼することはなく、消防団からも地区の安心・安全、防災力が高まったとの声が聞かれることから、事業の効果があったと考えられる。 四明荘は観光の主力施設となり、観光拠点のネットワークが強化され活性化に寄与した。 												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	商店街歩行者通行量の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●			商店街及び中心市街地の活性化を総合的に示す指標として貴重な資料であり、引き続き実施していく予定であるが、本事業で整備された湧水施設や観光施設と商店街の往來を今後調査することを検討する。				
	住民参加プロセス	整備する湧水路等の検討において武家屋敷や鯉の泳ぐまちの通りと同様に住民等の参加	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できた			●			清廉な湧水路と武家屋敷が調和したまちづくりを図るため、引き続き住民等の自発的な参加を促すため意識の啓発等を行う。				
	持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり活動推進事業(まちづくり推進協議会の活動支援)	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●			中心市街地の活性化を図るため、今後もまちづくりに向けた企画・支援を行う。				

様式2-2 地区の概要

島原市中心市街地地区(長崎県島原市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 中心市街地における歴史と湧水を活かした観光・住環境の整備 目標1: 中心市街地において景観計画の策定や湧水路等の整備、支援により歴史と湧水を活かしたまちづくりを進める。 目標2: 中心市街地において景観に配慮した住環境の整備、観光拠点のネットワーク強化、商店街の活性化によりにぎわいを再生する。 目標3: 住宅密集地区(通称: 船津地区)の生活基盤改善、高潮浸水対策により住環境の向上を図る。	中心市街地のアメニティに対する満足度 単位: 点	2.47 H19	3.00 H24	2.60 H24
	商店街歩行者通行量 単位: 人/9H	851 H19	950 H24	709 H24
	消火活動困難住宅戸数 単位: 戸	541 H19	340 H24	430 H24
	高潮道路冠水延長 単位: m	2,120 H18	1,340 H24	2,036 H24



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の道路や街なみ環境整備事業による、交通利便性の向上や、良好な景観形成の進展によって住環境が向上したが、アンケートの結果における住民の満足度は、想定した数値よりやや低いものであった。 四明荘の整備や湧水路等整備、湧水ネットワーク整備、観光ネットワーク整備、湧水に関連する施設整備等により、歴史と湧水を活かしたまちづくりが進んだが、今後、整備された施設の近隣にある商店街や観光施設を周遊する仕組みづくりが必要である。 住宅密集地区(通称: 船津地区)において、防火水槽の設置により消防水利が向上し、防災性の向上に貢献した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 本市の観光のシンボルである「島原城」の築城400周年に向けて、本市の豊富な湧水群や観光施設及び城下町の風情を活かしたまちづくりを促進して、観光による活性化に向けた整備を行う。 高齢化社会に配慮したバリアフリー等の道路整備により住環境の向上を図る。 本市の観光や快適な中心市街地の形成に向けて、湧水を貴重な資源として位置づけ、水路の修景整備など関連施設の整備を行うとともに、湧水に関する展示・情報発信による「体験・学習の場の提供」、および市民と一体となった清掃や観光客への「おもてなし」など、ハード、ソフトの対策により、個性的な市街地のまちづくりを図る。 観光資源や地域間のネットワークの強化を図り、まちづくりの担い手を育成し住みやすい中心市街地を形成する。